

令和6年度松本市保健所運営協議会 議事要旨

1 日時

令和6年11月21日（木） 午後1時30分から3時まで

2 会場

松本市役所本庁舎3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員

野見山委員、花岡委員、田多井委員、永瀬委員、東條委員、村山委員

(2) 代理出席者

久根下委員代理：松本市歯科医師会 常務 田中 三貴子氏

越口委員代理：松本広域消防局警防課 課長補佐 百瀬 志郎氏

(3) 欠席

竹村委員、荻部委員

(4) 理事者

小松保健所長、田中保健総務課長、神田健康づくり課長、横内健康づくり課長、加藤健康づくり課長、百瀬保健予防課長、大和食品・生活衛生課長、小野食品・生活衛生課長

4 会議次第

(1) 開会（田中課長）

(2) 所長あいさつ（小松所長）

- ・ 保健所設置後3年間は新型コロナ中心の業務となっしまい、保健所本来の業務の取組みはこの4月からと思っている。
- ・ 市の保健所ということで保健所自体の行っている「健康を守る」というところに、市町村基礎自治体の行う「健康をつくる」というものを融合した形で進めてきているが、まだまだ途中であると思っている。
- ・ コロナ予防接種がB類の定期接種となったが、昨年度死者数がインフルエンザの15倍ということでいくと、まだまだ一般の風邪という形ではなく、特に高齢者の方の負荷がまだある状況。
- ・ 皆様のご意見を、今後の施策に生かしていきたいと考えているので、忌憚のない、また、建設的なご意見をいただきたい。

(3) 会長あいさつ（花岡会長）

- ・ 松本市保健所が誕生し、約3年半が経過し、松本市医師会も多大な指導を受けている。

- ・ 松本市より業務委託され運営している城山介護老人保健施設において大小のクラスターが発生し、入居者、職員 90 名という規模の大きなクラスターも当時の塚田所長に適切にご指導を受け、2 週間ほどで収束することができた。
 - ・ コロナ禍での入院病床の管理に関して、国内各地で医療ひっ迫が起こっていたが、救急災害医療協議会のもと病院長とウェブ会議を開催していただき、ご指導いただいたことで、松本圏域では、ひっ迫に至ることはなかった。
 - ・ 日本病院会会長の相澤孝夫先生が広く公表してくださった松本モデルとして、全国的に評価された医療体制の構築ができたのも松本市保健所の皆様のおかげと思っている。
 - ・ コロナ禍でのワクチン行政に関しても、医師会館で深夜まで議論していただき、ワクチンの接種体制を構築していただいた。
 - ・ 保健総務課の皆様には、医療救護訓練に対し毎年新たな提案をしていただき、この数年間、大変進歩していることを実感しており、大変感謝している。
 - ・ 一昨日も松本市フレイル予防推進協議会が開催され、様々な課題について議論をしていただいた。
 - ・ 他の関係部署の方々との構築にも努力していただいていると拝察する。
- (4) 委員の紹介（田中課長）
- (5) 会議事項（理事者側から説明）
- ア 各課からの報告
- (ア) 保健総務課
 - a 医療安全支援センターの相談実績について（田中課長）
 - b 松本市医療救護訓練の取組みについて（田中課長）
 - (イ) 健康づくり課
 - a 予防接種事業について（神田課長）
 - b 保健師の地区駐在化について（加藤課長）
 - c 各種検診事業の推進について（横内課長）
 - (ウ) 保健予防課
 - a 松本市感染症予防計画の策定について
 - (エ) 食品・生活衛生課
 - a 動物愛護管理施策の推進に係る寄附金（クラウドファンディング型ふるさと納税）の募集について（大和課長）
 - b ペットの災害対策における飼い主自助力強化に係る災害対策ガイドの配布（大和課長）

c 避難所での食中毒予防対策に係る動画配信の活用（大和課長）

5 意見交換

（野見山委員）

- ・ 保健師の地区駐在化ということで、非常に前向きな取り組みで、この取り組みが良い形で実を結んでいけばいいと思う。

地区差の課題抽出とか効果の検証等が現時点で数値化が少し遅れていると感じる。

アウトプット評価については、別紙1とかこの文章の中に記載があるが、やはり今アウトカム評価が非常に重要で、13ページにある地区駐在化の効果の検証は、本来は初年度に行う方がいいと思うので、こういった指標の策定を急いでほしい。

別紙1のその他の重点事業についても、全てアウトカム評価をいかにしっかりやっていくかが大変重要だと思うので、経年的な評価についてぜひ示してほしい。

- ・ がん検診の受診率とか様々な検診事業について、別紙2にある令和5年実績は、数ではなく受診率が課題だと思う。

アウトカム評価がこういった形でなく、どの程度の方が受けているか、それが経年的にどのような推移であるか、これが、全市民から行う検証ができるよう、ホームページ等でも全てのデータの開示をしていただきたい。それこそがまさに今後の松本市保健所の保健予防というものがいかに推進できるかの検証に繋がる。

（田中氏）

- ・ 本年度より口腔がん検診を、松本市のがん検診に組み込んでもらった。
- ・ 口腔がんは、全体のがんの1パーセントから2パーセントと少ないが、発見が遅れたり治療が遅れたりすると、食べる機能とか、飲み込む機能あるいは発音とか機能障害が強く出ることがある。あと醜形をきたすというような傷ましい結果を招いてしまう。
- ・ 口腔がんは、なかなか一般の方には周知されていないのが現実で、受診率も半月で16件であった。
- ・ 松本市歯科医師会としても、早期発見・早期治療を訴え、啓蒙活動も行って受診率を向上させていきたいというのが一番の目標であり、今後も協力いただいてやっていければと思う。
- ・ 現在、当会の会員が134医院ほど（病院含む）あり、約8割強の約110医院ががん検診の協力医となっている。我々のスキルもアップして、今後、件数を増やせればと思う。

(田多井委員)

- ・ 医療安全支援センターの相談実績で、相談例を載せていただいて分かりやすい。
- ・ せっかく相談に来てもらっているのに、別の相談窓口を案内したりと、たらい回しになっている印象を受ける。

大変かもしれないが相談事例の追跡をし、結果どうなったかが分かれば一番よい。せめて、こういう相談があったときは誰に繋いだのか、この人に相談するようにみたいな相談窓口が明確になっていればよいと思う。特に2番の脳外科の事例は、下手をすれば医療事故みたいな感じになりかねないので、相談にきましたで終わるのでなく、その後どうなったかとか、誰に相談するように持っていったか、みたいなのがあるとより丁寧だと思う。この件は難しいかもしれないが、意見として申し上げる。

(永瀬委員)

- ・ 食品衛生というのは、食中毒の防止とか、あるいは異物混入等を防ぐということをやっている。
- ・ 近年はHACCP対応の衛生管理の大改正が施行されたため、飲食店と製造業それから販売業が1年ごとに交代でセミナーを開催して啓蒙している。今年は飲食店が中心になって食品衛生責任者の講習会を開催し、長野県下で2,600名、79会場で行っているところ。
- ・ 手洗いは衛生の基本中の基本であり、今、長野県の衛生食品協会の本部で手洗いマイスターというものを実施している。そこに参加して、現在は20数名が獲得している。
- ・ きのこの食中毒について、今年45回目になるが、長野県と長野市、松本市両方の保健所の協賛で、毒キノコとか食べられるキノコとかの勉強会をしたり、キノコの鑑別とかそういう相談事もしている。今年は10月29日に井上アイシティ21で行い、大体2,500人ぐらいの参加があった。
- ・ 松本市保健所が南へ移転するということで、松本食品衛生協会の事務所の在り方について今相談しているところ。
- ・ コロナが5類に移行後は、お客様はコロナ前以上に戻っており、インバウンドもかなり来ている状況。

(東條委員)

- ・ ワンヘルスについて、県の方でも先進地の福岡へ視察に行ったり、その後研修会をやったりと、だんだん動きが出てきている。

先日開かれた県獣医師会の会議で、その関係でもう少しワンヘルスの方を動かしていこうということになった。

ワンヘルスというのは、人と動物の環境を一つにして健康を一つに捉えていくということなので、そういう面で、市の方でも進めていっていただきたい。

- ・ 共通感染症（人と動物との感染症）は、我々の関係では非常に注目されているが、今、高病原性鳥インフルエンザがどんどん出ている。最大発生時と同じペースで進んでいて、昨日九州で10例目が出て120万羽以上が処分されている。長野県では今のところまだ発生はないが、去年もインフルエンザのマニュアルを作るという話があったので、市の方でまたその辺も進めてもらいたい。
- ・ 共通感染症の方でもう一つ心配しているのが、SF T Sという重症熱性血小板減少症候群という病気がある。これは猫とかから感染するが、今、隣の富山県と岐阜県まで発生が来ている。暖かい所が出るが、ダニが原因。感染症計画の中にダニを入れてあったので非常にいいと思うが、その辺のことを頭に置いて進めていただけたら非常にいいと思う。
- ・ ペットの災害の関係について、今回1月1日に能登の災害があったが、そういう時にどうするかが非常に問題になる。
- ・ 12月1日に、塩尻でペットの災害の研修会を松築支部で開催する予定（村山委員）
- ・ 冒頭の保健所長挨拶で、中核市になったメリットとして、保健衛生行政と松本市独自の取り組みを行うという話があったので、そこを重点に進めていただきたい。
- ・ 保健師の地区駐在化については、全地区駐在体制が整ったということで、引き続き地域づくり、地域福祉に繋げていってほしいと思う。
また、地区駐在化の効果検証が非常に大事だと思うし、こうした情報は社会福祉協議会と共有をしていただきたい。
- ・ 市の委託で、私どもも全地区に地区生活支援員を配置しているので、それぞれの地区生活支援員も交え、手を取り合って地域福祉進めていっていただきたい。

（百瀬氏）

- ・ 令和6年度救急件数について。10月までで昨年から微増傾向となっている。令和5年が2万1,077件、令和6年は2万1,500件くらいと推測している。コロナ過の令和2年には1万6,000件ちょっとまで落ち込んだが、救急件数は増えていっている。
- ・ 信州まつもと空港の国際化に伴い検疫所ができた。それに伴う検疫所からの救急搬送について、この間、県の職員の方と調整したが、移送は保健所の仕事と言っていた。緊急搬送の際は救急活動になるので、またルール

作り等を進めていきたい。

(市川委員)

- ・ 警察としては、今回の話に関する取り扱いや相談等があったら、情報共有、連携等をさせていただく。

(花岡委員長)

- ・ HPVのキャッチアップ接種に関して、松本市医師会も接種率の低下を考え、3月に生涯教育講座で横浜市立大学の教授を呼んで、会員にキャッチアップの推進について推奨を促した。また、9月末で終了予定だったが市保健所から、この11月までに何とか始めれば3月末までに接種を終わることができるという情報を得て、11月末まではキャッチアップが続けられることも周知した。
- ・ 保健師の地区駐在化に関して、この会議や他の会でも野見山委員から、松本市が長寿になった要因は、保健師が在宅へ赴いて高齢者たちを指導したことにある、現在松本市は外注化が非常に多い、保健師が市役所庁舎の机で勉強しているのではなく外へ出てって保健指導しなさい、という助言をいただいた。昔は保健師が家の中に入って行って、高齢者と会話することができたが、今は一人暮らしの高齢者もいるし、なかなか現実的でないことは分かっている。
- ・ 先ほど申し上げたフレイル予防推進協議会においても、電力データを使ったキャッチアップを行っていたが、昨年までのデータが非常に良くなかった。新聞報道では83パーセントという数字が出ていたが、これはフレイルでない人をフレイルでないと診断したものと、フレイルの人をフレイルと診断したものを合わせた数字ですから高くて当たり前。その数字では駄目だよという話をして、実際にフレイルを診断する確率は8パーセントぐらいだったので、これでは市の税金を使って行っていく事業としては市民に対して失礼じゃないかなんていう話もさせていただいた。

冬場はフレイルでない人も閉じこもってしまいデータに一律性がないという検証もあったので、この夏の3か月間くらいのデータを提示していただいて、28パーセントぐらいまで3倍以上増えたと言われたが、蓋を開けてみたら全部のデータがクリアになっていない。予測値で、これは中部電力と東大の研究者が出したものだが、これだけでは現時点、信ぴょう性に欠けるので、副委員長の信州大学リハビリ科の堀内先生にも統計的なデータについて検討いただいて、できるだけ生のデータを出すよう伝えた。

こんなことがあって、今年の7月から9月までの間で行った市民検診で、松本市医師会の10の医療機関が手挙げをし、フレイルチェックを行った。しかし、野見山委員によると、検診は70パーセントを超える検診率がな

いと、PDCAサイクルに則った疾病予防には繋がらないという話を市の方に何回もして、これを上げようと思うと、どうしても期間延長ということになる。ただ、検診は非常に手がかかるわけで、内科の先生方は10月からインフルエンザ、コロナの予防接種が始まる中で、これをずっと続けるのは無理がある。できるだけ協力したいという思いはあるが、来年度以降、内科の先生たちがそれに協力してくれるかどうかは非常に微妙な問題なので、よく話し合っただけ進めていただきたい。

- ・ ペットの問題について、私がロータリーの団体の県議の長をしていたことがあり、東北の被災地へ2回ほど研修に行った。

獣医師が、原発避難により住むことができない地区で、パチンコ店の後を利用し、野放しになったベッドを飼っていた。猫は繁殖力が旺盛であったという間に2代3代と増えていく。その獣医師に、2代3代を超えた猫は、もう手がつけられない「あなたたちに見せてあげたいけど怪我するといけないから見せられない」と言われた。市の方もいざここで災害が起こったときに、ペットをどうやって扱っていくかの対策として、心の隅に置いていただければありがたい。

(野見山委員)

- ・ フレイルについては、今日ホームページ上でのデータ開示の話をしたが、行政上の数字、特に税金が投じられているものについては基本、数字は全部公開をしていただく方がいい。特に経年的な変化を我々は見たいところ。
- ・ トライしていることが必ずしもうまくいくわけではないと思うが、そのときにPDCAを生かして修正していくことも大変重要。そういう意味で、目標をしっかり立てて、その数字を公開し、そして評価をしていくというこのプロセスをフレイルにもぜひお願いしたい。
- ・ 今日、私が申し上げた項目はアウトカム評価に至っていない。アウトプットを頑張っているのは十分承知はしているが、重要なのはやはりアウトカム、結果がなければ努力しても努力は無ということになりかねないので、ぜひ結果を開示していただきたいというのが切なる要望。その上で議論をして我々がサポートできること、市民みんながサポートできることは何なのかということを考えていく、そういう建設的なことをやっていくことが重要。

(花岡会長)

- ・ 松本市は信州大学があり、野見山委員を初め、先ほどのフレイルなどの協議会に大学の有識者が入っている。そういう人たちの話に十分耳を傾け、何が大事かということを考えていただきたい。

信州大学の先生は、平素から、市から「こんなデータが出てきたのです

が、先生これどう思いますか」といった要望があれば判断していただけると思う。生のデータを先生方にぶつけ大学の有識者の意見を聞き、それを次に回していくのが野見山委員のおっしゃった言葉だと思う。

- ・ 市民は、新聞に出た数字をまともに信じてしまう。「83パーセント有効なんだ、フレイルいいじゃないか」と市民は思うかもしれない。

(田多井委員)

- ・ 現在、世の中に抗生物質がない。これは製薬会社に下ろす現薬メーカー（材料を作るメーカー）が操業停止になり、一時期、材料が手に入らず出荷制限がかかったため。
- ・ 医師も治療に必要で抗生物質を処方するが、処方箋を持ってこられても薬局でもその薬が手に入らないことが多々ある。どうしてもその薬が必要ということで、八方手を尽くして探す。当薬局だと、この間も必要な薬がなく市外の薬局から取り寄せているのが現状。
- ・ 去年も薬がないという話をしたが、何かしらの影響で薬が手に入らない、そんな時代がいつまで続くのかと思う。
- ・ 薬剤師として啓発できることは、薬に頼らなくても病気にならない、病気を治る体を作ろうということで、昨年も松本マラソンを始め、健康増進イベント等を進めたらという発言をした。松本市は自然も多く、体を作るにはいい場所だと思う。水も美味しい、食べ物もいい、空気も綺麗ということで、薬を飲まない方がいいことは間違いないので、薬に頼らない市民でありたい、そういうことを目指していけるような松本市になるのがいいと思う。

(花岡会長)

- ・ 抗生剤だけでなく、鎮痛剤もこのところ少し配給が元に戻りつつあると聞いています。
- ・ 市にとって一番考えていかなければいけない、あるいは松本市だけの問題ではないが、日本はワクチンを作ることをほとんどやめてしまった。日本で作ってもインドとかそういう安い国で作ったものに負けるから。
それがこのコロナに至っては、インドで作ったものをほとんど使っていたわけで、これでは世界的にワクチンが必要になったときに日本には出してもらえないという状況になってワクチンの接種が少し遅れたというのが絶対あると思う。
- ・ 我々からするとワクチンに関して日本は本当にちょっと立ち遅れたので、今後はやはり日本国内で製薬メーカーがワクチンを作れる環境を国が作っていかないといけないと思う。実際当院でもワクチンを打っているが、患者は「お宅は何のワクチン打ってるの」って聞いてきます。なので、そ

ういう返答に「ファイザーですよ」って言わなきゃいけなくなってしまうので、どうしてもそういうメーカーに偏りができてしまっているのが現状。これを松本市だけでメッセージを出していても、影響がなくなるとは考えられないが、少なくとも市職員にはそういうことに関して精通していただきたい。

(野見山委員)

- ・ 確かにこれだけ投薬したい薬が手に入らないっていうのは異常な事態だろうと思う。そういう意味では、我々がより健康であるべきということで、やはり原点に戻るべきかなと思う。ぜひそうしたいなと思うので、そのためにもぜひ保健所を中心とした松本市の行政と我々とが一体になっていい形で進めていける体制ができればと改めて思う。

6 閉会